

令和6年度第1回黒石市総合教育会議 会議録

◇開催日時 令和7年2月19日(水) 午前9時30分

◇開催場所 黒石市役所 3階 庁議室

◇議事日程

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議事
 - くろいし型小・中一貫教育と学力向上
 - 1 くろいし型小・中一貫教育について
 - 2 学力向上の取組について
 - 3 地域とともにある学校づくりについて
- 4 その他
- 5 閉会

◇出席者

市長	高 樋 憲
教育長	山 内 孝 行
教育長職務代理者	宇 野 元 雄
教育委員	村 上 照 幸
教育委員	後 藤 耕 谷
教育委員	永 川 信 子

◇説明のために出席した者の職氏名

教育委員会理事・指導課長	高 木 威
指導課主任指導主事	境 義 一

◇その他出席した者の職氏名

教育委員会	教育部長	樋 口 秀 仁
	学校教育課長	西 塚 啓
	社会教育課長	村 元 裕
	文化スポーツ課長	池 田 守 臣
市長部局	企画財政部長	五 戸 真 也
	企画課長	山 口 俊 英
	企画課参事	佐 山 昌
	企画課長補佐	福 原 真由美

◇会議の概要

午前9時30分 開会

高樋市長 ただ今より、令和6年度黒石市総合教育会議を開催いたします。

本会議は、黒石市総合教育会議運営要綱第5条第1項の規定により公開となっております。また、同要綱第3条第3項の規定により私が議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議の開催に当たりまして、私から御挨拶を申し上げます。

委員の皆様方にはお忙しいなか御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
す。

また、日頃から当市の大変重要な部分であります、教育行政に御尽力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

人は宝だという考えのもとで、いろいろな能力のある子どもたちをどう伸ばしてやれるのかが、我々が一番力を注がなければいけない部分であると考えております。そういう部分でも、黒石市教育大綱を立ち上げ、今も黒石市教育委員会が主体となって御尽力いただいているわけですが、忌憚のない皆様方からの御意見をいただきながら審議し、黒石市が他の地域から特化され、他の地域から羨まれる教育環境にさせていただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入る前に、本日の会議の議事録の署名者を決めさせていただきます。

黒石市総合教育会議運営要綱第7条第3項の規定により、議長及び議長が指名する1人の構成員が署名することとなっておりますから、私から宇野元雄委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

宇野委員 はい

高樋市長 それでは、議事に入ります。

議事進行につきまして、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

本日の案件は、教育大綱の5「教育施策」の中の最重要項目にあります「くろいし型小・中一貫教育と学力向上」についてであります。

それでは、庶務から説明をお願いいたします。

議事：くろいし型小・中一貫と学力向上について

- 1 くろいし型小・中一貫教育について
- 2 学力向上の取組について
- 3 地域とともにある学校づくりについて

(配布資料に基づき教育委員会理事・指導課長より説明)

高樋市長 ただ今の説明につきまして、御意見御質問等ございますか。それでは、お一人ずつから御意見を伺いたいと思います。宇野委員からお願いします。

宇野委員 指導課では非常に事細かに、これからの連携をさらに深めた一貫教育のほうに進めることへの具体例がはっきりと打ち出されていて詳しいプランだかと思います。ただ、中学校区の特色を考えた場合に、中郷中学校区は施設隣接型、黒石中学校区は施設分離型のため、さらに連携をしていかないとなかなか浸透していかないということですので、一緒くたにまとめるのではなく、中郷中学校区は児童生徒間の交流を活発に行うことにより黒石中学校区よりも深まる特色があるのではないかなと思いました。黒石中学校区のほうは、先生方の交流をできるだけ共通意識をもって進めていく必要があるなと感じました。いずれにしても一番思うのは話がずれますが、先日、プロ野球の栗山監督が出ているテレビを視聴しまして、感銘を受けました。それは、常にその選手の良さを引き出して自分は寄り添う立場になる、コ

ーディネートしてあげる、そういう考えに感動いたしまして、教育委員会も各学校管理職に対して寄り添い、あるいは管理職の先生方のいろいろな悩みを引き受けながら聞く姿勢になって寄り添うコーディネーター役だなど、それに徹する必要があるなと思いました。

高樋市長 ありがとうございます。後藤委員お願いします。

後藤委員 くろいし型小・中学校一貫教育については、宇野委員からもあったように、中郷中学校区と黒石中学校区では形態が全く違うということもありますので、まず、くろいし型小・中学校一貫教育として統一した取組を当然行う必要があると思うのですが、それ以外に、中郷中学校区は特に隣接型で、ましてや小学校一つ、中学校一つで全く一緒の子どもたちが9年間過ごせるという環境ですので、これはさらにいろいろなことが考えられると思いますので、中郷中学校区は別にいろいろな面で小・中学校の連携を発展させていく必要があるのではないかなと感じております。それから、学力向上についてですが、全国学力検査の結果を見ると心配されるような状況があるわけですが、公表されていないということで、我々が感じているような心配している様子が現場の先生方、あるいは父兄のほうにうまく伝わっていない。要するに、我々の思っていることと現場のほうと差があるのではないかなと感じますので、実態把握をちゃんとしてもらって、その上でそれを活かしていくことが必要ではないか。実態把握の上で対策を講じていくことが必要だと。危機感を持たせる必要がある。平均ということを考えるとあまり個人的に関係ないという意識もあるわけですが、平均で低いと考えると、全体的な学力が低いことになりますのでその辺を一人一人が自覚をして、危機感を持って現場も我々もあるいは家庭ももちろん本人も取り組んでいくという姿勢が必要なのではないかなと感じています。以上です。

高樋市長 ありがとうございます。永川委員。

永川委員 私は、今年、本当に自分が古臭い人間になったなとパソコンを見ても、社会の状況を見ても感じるようになっていて、私が中学校のときとか子どもの頃に自分に必要とされている能力と今の子どもたちが大人になったときに必要とされている能力とは全く違ってきているのではないかなとすごく感じてきています。ただ勉強だけができればいいという時代はもう終わっていて、それぞれ自分の好きなことやできることを伸ばしていく、そして社会に適応していくということがますます必要になるのではないかなと思っていて、そういう面で、くろいし型小・中一貫教育で地域を交えて学校もいろいろ変わっていくというのが子どもたちのいろいろな能力を育成する上ですごく大事なことだなと感じています。たとえば、社会教育課とかでも理科の関係とかいろいろな事業をやったりしていて、黒石市の伝統的な行事とかに子どもたちが参加することで、それぞれの子どもたちの居場所とか力を発揮できる場所がどんどん増えていくと、子どもたちがより自信を持って活動できるのではないかなと思っていて、学区ごとに掲げられた目指す子ども像のために保護者、そして、地域の方からのいろいろな意見とかアイデアを募りながら、学校としてできること・できないこと、地域としてお手伝いできることが明確になっていくと、多分、中郷中学校のほう勉強でも統一感ができ、小・中学校がよい流れでいくと思うんですけども、黒石中学校のほうは少し難しいところがあるので、そういうところでもいろんな力を充てることで、それぞれの特色が出せるくろいし型小・中一貫教育になるのではないかなと感じています。以上です。

高樋市長 ありがとうございます。村上委員。

村上委員 私は最後4番手なので、皆さんと私が思っていることと重なっていると思いますが、まず1点は、中郷中学校区は施設隣接型、黒石中学校区は施設分離型とい

うことで、それぞれ違うのでそれぞれの特色を生かした形で小・中一貫教育を目指していただきたいなと思いました。2つ目は、私が学校訪問をして、いろいろと考えさせられることが多くて、例えば、小学校で刈り上げをしていたり、茶髪にしていたり、色を明るく染めていたり、ただ中学校に行けば中学校で誰一人いない、その部分で小学校から中学校に上がって、いわゆる中1ギャップだったり、今まで何年も髪を染めていたのに中学校に行けば染められないので、それだったらいいやと不登校になったり、不満が積み重なっていろいろな問題が出てくると思うので、その部分にキャリアパスポートをもう少し有効活用していったらいいのかなと。それが中学校だけでなく高校に行けばさらに厳しくなって、眉毛に前髪がかかるとだめだとかそこまで厳しくしなくてもいいのではないかと。うちの息子も高校で眉毛に前髪が引っかかっているのを、明日までに切ってきてと言われていたり、そういうギャップが生まれていると思うので、小・中・高まで最終的に考えてキャリアパスポートを有効活用していくことができれば不満も無くなっていくのかなと思います。そして3点目は、今、教育委員会に携わる人達だけで物事を決めていっていると思うので、教育の視点だけではなく、せっかくコミュニティ・スクールを目指していると思うので、地域と一緒に子供を育てていくということが大事だと思うので、教育の視点だけではなく、地域の問題点や課題がいっぱいあると思うんです。地域の問題点や地域の方たちの意見も踏まえて、小・中一貫教育の部分、コミュニティ・スクールの部分を進めていけばもっとよい意見が出て、アイデアが生まれてくるのではないかと思います。以上です。

高樋市長 ありがとうございます。教育長どうですか。

山内教育長 私からは、市長が言われた今回のテーマと他の地域から特化されるような観点から見たときに、高樋市長が日頃から教育を非常に大切にいただいているなという気がしております。よその首長さんもそうだと思いますけれども、特に黒石市にあっては、市長自らが教育に際していろいろ御配慮いただいている。評価されているところで一番目に挙げられるのは、市長が健康宣言をして、そのことが健康教育ということで2回健康科学といいますか、弘前大学のCOIで発表させていただいたのですが、それが他地域の見本というか、先駆けとなっている点は評価されるのではないかなと思います。併せて、小・中一貫教育についても、初期の頃から提言されていたのですが、当時は小・中連携ということと小学校の主軸ということ、併せてコロナということもあって、なかなか掲げた学校教育の進み具合が充実していたとは言えない状態だったのですが、今回の総合教育会議のように大きなテーマとして取り上げられたことは大きな意義があると思います。県内各地において、一貫教育という名前が取り上げられていますが、これはどちらかというと義務教育学校において小・中一貫というところが、例えば県内においては、三戸とかこれから行われる六戸とか、自治体において1校のところが先進的に取り組んでおりますけれども、県内10市の中で小・中一貫教育をもう一回見つめ直して取り上げているところで、ようやく本気になって、連携からさらに深めたところまでできているんだと思います。各学校においても、教育関係者、教員とか管理職とかがもう一回一貫教育を見つめ直したのと、何よりも一貫教育を見つめ直したときに全保護者にアンケート、これもメールで、いろいろな形で全保護者の考えを取りまとめてそれぞれの学校ごとに積み重ねてようやくこういうものができたと考えております。ですから、目指す子ども像一つとっても、これがそれぞれの意見が反映されて自分たちで作ったんだというところの意見のまとめ方のプロセスが非常に有意義であったと感じます。せっかくみんなで作ったものですから、これをいかに目標に向けて取り組んでいくかというところが、この会議とかを通してみんなの理解を深めてより広げ

ていきたいなと思っております。委員の方から出ているところでは、子どもたちの生活習慣、学習習慣ありますけれども、やはり変えていく、考えてもらうところは、一言でいうと保護者の意識にも関わってくると思いますので、その保護者の意識をどういう形で向上させていくかということこれからみんなで一緒に取り組みたいと思っております。以上です。

高樋市長 ありがとうございます。

くろいし型小・中一貫教育について皆さんの御意見を確認したわけですが、中郷中学校区と黒石中学校区と、黒石市の場合は2つあって対応が全然違う、先ほど目標の話もでしたが、教育大綱で大きい目標は持っていると思います。その目標を中郷中学校区の小・中一貫教育のやり方と、黒石中学校区の小・中一貫教育のやり方と2通りつくっていかないといけないと思います。それをどういうふうに進めていくのか。先生方の交流も計画されているんですよね。でも計画されているだけじゃだめなんです。先生方が交流されていないとだめなんです。小・中一貫教育の根本というのは。ところが、今、働き方改革で先生方が忙しい、忙しいという部分で、みんながそれに対して遠慮している部分があって、結果的に踏み込めていない部分が多分にあるんですよね。ですので、先生方が忙しい中においても、市教委としては、くろいし型小・中一貫教育を進めていくという前提の下で、中郷中学校区は中郷中学校区のやり方、マニュアルというものを作ってお互い協議して、黒石中学校区は黒石中学校区のマニュアルを作って、まず進めていくということが大切だと思うんですよ。計画したいということは出てきますが、行ったということは出ていないんですよ。やはり、そこに踏み込んでいかななくてはいけないと思うんですよ。ですので、先ほど宇野委員の話でもありましたが、先生方の交流は必要です。でも、教育委員会が中心となって上手く計画を作っていくと一生やられないと思うんですよ。さっき村上委員のほうから、小学生のときは茶髪で、中学校に行ったらできなくなったという。多様性というのは分かるんだけど、多様性の中にもルールがあるのでないか。学校には学校のルールがあるわけですよ。多様性を認めざるを得ないが故に、結果的にルールを妥協せざるを得ない状況になっている現実がある。これはよいことではないと思うんですよ。先ほど教育長も話されてましたが、親御さん方にも、学校にきたら学校のルールがあり、日本国民に生まれたら日本国のルールがあるわけです。黒石市には黒石市なりのルールがある。学校は学校のルールがあるんですよ。そこは、相互理解の下で進んでいくことが大切だと思う。永川委員の時代についていけないということは分かるんだけど、変えないといけないことは変えていかないとだめだと思います。新しいものは新しいもので取り入れていけばいいんだけど、守るものはしっかり守るという教育は、日本がこれだけ戦後、復興してきた先人の人達の勉強に対する考えというのはもっともっと強かったと思う。我々はもう全然弱くなってしまっていて、それを当たり前の社会にしていかなければいけないと思いますよね。新しいものはどんどん取り入れていってやって、あとは、子どもたちがどう選択していくのかということになっていくと思います。くろいし型小・中一貫教育も私が市長になって取組を始めて10年過ぎて、ようやく取り組む環境になりつつある。10年ですよ、10年。

永川委員 ひと昔ですね。

高樋市長 ひと昔。これも教育委員会、教育行政の中に小・中一貫教育について賛否ある中において黒石市は取組もうとしてやってきましたが、ようやく教育行政の中に少しずつ浸透しつつあるが故に、それに携わる方々の受け入れる許容範囲が出てきた感じもするんですよね。でも、小・中一貫、文科省は中・高一貫、それも分かるんだけど、これもうまく機能していない現実も認めないといけない。中・高

一貫で学力を高める前に、小・中一貫で基礎学力を持たせて人間教育しなければいけないと思う。そのための小・中一貫だと思っていますので、ぜひ、くろいし型小・中一貫教育、中郷バージョン、黒石バージョンをしっかりと築き上げて一緒に取り組んでいただければなと思っていました。先ほどから話しているように地域コミュニティの部分においても、学校運営協議会の移行を計画しているんですよね。これはいつからやるんですか。これは移行しなければだめになったのではないですか。学校評議員から学校運営協議会に変わらなければいけなくなったのでは。

樋口部長 学校運営協議会の設置は努力義務で、まだ移行しなければならないというわけではないんですけれども、今それに取り組んでいて来年の4月1日をもって、このコミュニティ・スクールに移行しようと考えています。

高樋市長 来年の4月1日。今年1年間は準備期間になるのか。何を準備するのか。

樋口部長 コミュニティ・スクールのメンバー構成から始まりまして、学校運営に係る今まで校長先生達が決めていたものを地域と保護者と協働で学校の運営方針を決めていく、そこに少し時間がかかると考えていました。

高樋市長 その前に、学校サイドのほうですが、校長先生自体は学校評議員から学校運営協議会に移行することは認めているのですか。

樋口部長 はい。

高樋市長 認めているのでしょうか。であれば、まずは行動を起こすことが大事ではないですか。行動を起こすためには、まず、学校運営協議会の組織を立ち上げないとダメなんじゃないですか。

樋口部長 そうですね。検討するための会を立ち上げないといけないと思います。

高樋市長 検討するための会…。学校運営協議会に移行するのは決まっているんですよ。学校運営協議会を7年度1年かけて組織をつくるということですか。

樋口部長 その学校の方針も含めですね、今まで校長先生が決めていたものに対して、保護者の意見、地域の意見も入ってくるので折り合いをつけていくことになります。

高樋市長 それは、令和7年度中に煮詰めて令和8年4月1日から学校運営協議会をスタートするということ。今年は準備段階ということですか。

樋口部長 そのように考えていました。

高樋市長 学校運営協議会の方針というのは7年度中に作り上げるということでもいいですか。学校運営協議会の組織する協議会自体を立ち上げるということですね。

樋口部長 そのとおりです。

高樋市長 これが動き出すと、さっき村上委員が言った地域の意見に反映されるわけです。分かりました。ぜひ、これはやってください。先ほどの説明で、計画、計画でなく実行をひとつ期待したいと思います。

宇野委員 中郷中学校区ですけれども、2月に地区のほうに小・中一貫教育をこういうふうに進めていきますというパンフレットが入っており、それを見ました。今日、このような質疑もあり、学校としては、このように取り組んでいくんだということを今、情報社会ですので、学校のホームページや学校だよりでも小・中一貫教育の何が行われたのか、そして、これから期待する成果だとか実際に踏み込んで情報を地域に発信していかななくてはいけないなと思いました。そういうことも私が先ほど言いましたが、教育委員会としてはコーディネートを含めて経過をきちんと周知していく、さらに改定するところはないかというふうにしていかないといけないと思いました。

高樋市長 そうですよ。やはり、どちらかというと準備に時間がかかってしまう。教育行政は何でか分からないんですけども、10年かかっているんですよ。

永川委員 確かに時間はかかりましたけど、学校統合とかもありましたので、私も黒石

商業高校で経験しておりますけれども、学校統合というのはすごく大きな課題だし、そこで無くする学校をどうのこうのと折り合いをつけたり、それに伴って教育委員会の方々は大変だったので、そこは大目に見ていただいて、これから具体的に進めていきますし、今の学校運営協議会というのも、私が校長だったときの4月に経営方針をお話しするのに、たとえば転勤して新しい学校に行くと何日間のうちに前の校長先生がやったことを土台に考えて皆さんにお示ししないといけないんですけれども、これからは今の1年を使って新しく運営協議委員になった方達と校長先生が煮詰めて新しい学校経営を4月にバーンと出すということなので、やはり最初のやることは時間がかかるのではないかと思います。ぱぱっといくことではないと思うので、そこで何回も何回も話して煮詰めていかないとだめだと思うので、そこのところはじっくり取り組んでいただいて、地域とともにある学校というのを作って、それが小学校・中学校というのはいずれ一緒にやっていかないといけない、結局、目指す子ども像は一つなので、それを段取りよく1年間でやっていかなければいけない。確かにもちろん実行ですけれども、やはり段取りは委員会の皆さんで頑張っていたいただいて、来年の4月から晴れて目標を出せるようになればいいかと思います。

高樋市長 学校経営の社長は校長先生なわけですね。校長先生は長いキャリアの中で自分なりの理想教育というものは持っていると思うんですね。それを実現していくために力を傾注していくと。だが、そのおかげで何が起きるかという、過去にやってきたことのいいものと悪いものを選別して、いいものに継承していけばいいのだけれども、なかなかそういう時間的余裕がないような気がします。

永川委員 小・中学校は違うけど、高校は学校のカラーがあるので、例えば黒石高校なら黒石高校の何十年も続いているカラーがあるし、黒石商業の場合は目立つ生徒誓いの言葉という、どんとしたものがあって、やはり高校はその高校のカラーがそれぞれあると思うので、それに沿ったものになると思うのですが、小・中学校というのは高校と違って地域に根差してきたものや核となるものがあるから、その核となるしっかりした柱というものが壊せないんじゃないかなという気がします。それが何かというと…。

高樋市長 10校あった小学校が4校になったので、伝統というものが失いかけた現実があるかもしれない。黒石小学校は黒石小学校なりの伝統があったと思う。校長先生が変わっても伝統は守り続けてこられたと思うが、今、適正配置で一緒になってしまったことで、新しく伝統を作っている最中なのかもしれない。

永川委員 今がチャンスなんじゃないですか。

高樋市長 黒石小学校は新たな伝統を作ることができると思う。中郷小、北陽小、黒石小の3つが一緒になったから。ところが、黒石東小学校は、追子野木小、浅瀬石小、牡丹平小が一緒になったことで新しい伝統を作らないといけない。昔からの伝統を残しているのは東英小だけなんです。六郷小は上十川小と一緒にあったので、また悩みながら伝統を作っていくといけない。そういう意味では、適正配置はやってしまったけれども大変なことなんですね。

山内教育長 適正配置のところを全国発表させてもらったんですけれども、全国の反応としてはすごい取組だと。でも、手厳しい人はここまでやるんですかというような意見もありました。

高樋市長 私も厚目内小・中学校の閉校に関わったときに、学校というのは地域の文化で財産なわけですね。それを無くすということはすごいことなんですよ。これを黒石市民が受け入れてくれたがゆえに、今の学校配置が出来上がったんですよ。我々としては大変ありがたい気持ちを持ちながら、それに応えていく教育制度にしていけないといけない。そのためには根本的には学力向上と人間力向上、この2つを徹

底して追い求めていって、それは子どもたちだけでなく、地域も、親御さん達も同じ意識をしていかないといけない、先生方も。そこを学校運営協議会できちんと目標を打ち上げて、それに向かっていく環境にしていきながら、それをやっていけば自然と小・中学校一貫というものが馴染んでいくのではないかと思いますけれども。この前、私は子ども美術展を見に行きましたが、子どもたちにはすごく能力があるんですね。よく小学生でこんな絵が描けるものだと思うくらい。今の（仮称）子ども美術館もそうですけど、子どもたちの能力をどう引き出してやるかなんですね。もしかして黒石市からピカソが出てくるかもしれない。

永川委員 あってほしいですね。

高樋市長 未来を期待できる子どもたちがいっぱいいるんですね、黒石市内には。黒石市内の子どもたちの能力を我々がどう引き出してやって、世界で活躍できる人材に育成していくかということが、私は一番力を入れなければいけない案件だと思っています。最後に、委員の皆様から一言、教育行政のみならず黒石市に対しても要望、あるいは期待などあればお願いしたいと思います。

宇野委員 学力に関して言えば、すぐに結果を求めるのは無理かなと。そういう環境土壌をしっかりと作って、地道に一生懸命やっていけば必ず子どもたちは自分の夢を見つけて、自分の進路を決めて伸びていくだろうという思いがあります。私が感じているのは、少ない予算の中で、各学校にALTの先生方1人ずつを配置していて、これは他市町村にはないと思います。常に、外国のALTの方が校内にいて、気軽に交流ができる環境は素晴らしいなと思いますし、そして、UPする先生の予算配置もほかの地区にはない、これは黒石市が自慢して良いところではないかと思っています。そういう意味では、これからも環境を大切にして努めていきたいと思っています。

高樋市長 ありがとうございます。後藤委員。

後藤委員 黒石中学校区の目指す子ども像の中に、故郷を愛し、文化と伝統を大切にするというのがあるんですけども、何が黒石市の伝統、あるいは文化かと考えて、よされとかねふたとかいろいろあるわけですから、それをどのように子どもたちに伝えていくか。小学校の段階ではこの辺まで、中学校ではこの辺までと計画的にやって、黒石市で育った小・中学生が故郷に対して愛着を持てるような取組、それが伝統として残っていくようなことも大事ではないかなと思います。

高樋市長 ありがとうございます。永川委員。

永川委員 私は、読み書きそろばんが大事だと常々思っているんです。いくらパソコンを使う世の中になっても、人の脳は手先を動かしたり、こつこつやることが能力を高めることだと思っていて、学力向上に関しては、さきほど宇野先生がおっしゃったように環境はすごくできているし、指導課も頑張っているし、先生方も忙しいなか頑張っていると思います。ただ、みんながちょっとずつ余裕がない生活をしていて、特にお父さん、お母さんは余裕がないと思うんです。だけど、家庭の中で本を読んだり、新聞を読んだり、会話の中からスマホのこういうところはいいけど、こういうところはだめなんだよというような家族関連のちょっとした話の中から子どもたちの批判意識が生まれたり、あるいは、みんなでテレビを消して本を読んでみようとか、そういう時間が生まれたりということで、せっかくわのまちセンターができて、小さい子供たちが集まってきたときに保育士さんとか保健師さんとかがいちいち働きかけをしながら、小さいときから親も育っていくような環境をつくっていければ、子どもたちも安心というか、落ち着いて学校生活も取り組める。心が安定するといろいろ取組が違ってくると思うので、小さいときから若いお母さん方への働きかけとか、そういうことにも教育委員会プラス福祉分野の課とかいろいろ

あると思うんですけれども、課を超えていろいろなことをやっていただきたいなと思います。以上です。

高樋市長 ありがとうございます。村上委員。

村上委員 今日の話は、小・中一貫教育だったり学校運営協議会の話だったのですが、いずれにしても、何をするにしても、教育に関わらず行政もみんなだと思えるんですけれども、地域の意見、子育てとか保護者の意見、その人達だけでなく弘前大学の先生、地域の研究している先生だったり、地域で商売をしている人だったり、そういったいろいろな人達の意見を取り入れて新しい物事を決めていかなければ、なかなかうまく進んでいかないのかなと思っているので、いろいろな意見を踏まえて物事を進んでいくことができれば黒石市がよりよくなっていくのかなと感じております。

高樋市長 ありがとうございます。教育長。

教育長 私からは2点ですけれども、1つはヘルメットの着用です。これから令和7年4月の中学校の入学で、通学の際は約束事として、ヘルメットを被って通学するんだということが両中学校で確実に実施されるようになったのですが、そのヘルメットを配付したので、配付が先で実態が伴っていないというのはあったんですけれども、学校と生徒会と保護者のアンケートとみんなの協力で自然にできたといいますか、決まったからやりなさいでなくて、みんなでやはりつけましょう、大事だよ、命を守ろうねと、みんなで盛り上がり決まったところにすごく意義があると思うんです。これも1年かかりましたけれども、初めのアンケートを取る段階でメールでやったんですけれども反応がすごく速い。30分で200人から返ってくる。それくらい関心とか高まりがあって、ようやく今実現するので、ヘルメット1つとったときにつけることが安全で命を守るためにつけるんだよでなくて、もっとその背景にあるのが市長がおっしゃったルールを守りましょう、約束を守りましょう、みんなで決めた基本的な生活習慣とか学習習慣とかそういうことはみんなで守っていこうね、という高まりにつなげていきたいと思っています。それが1点目です。2点目は、学力、ペーパーテストとか認知能力とか点数が出るところがあるんですけれども、永川先生も言われたように将来を考えたときに、今一番必要なものは非認知能力、人間性とか、共生力とか思いやりとか感動する力とかいような非認知能力の向上。弘前市では今の2月の教育委員会挙げての講演会で、全小・中学校の校長が出席して講演を聞いて、来年度の学校の行事にどう取り組むかということが重点事業として出てきています。それを考えたときに黒石市ではどうかといったら、(仮称)子ども美術館を全面的に取り上げている。美術館を造ることによって非認知能力にすごくつながる。先ほど、市長が子ども美術展のお話しされましたけれども、建物関係で言えば、市立図書館もそうですが、文化環境を充実させることが非認知能力の向上につながるんだということを市民、子ども、保護者、わのまちセンターの施設の利用もそうですが、そういう全てのものがつながってきて、子どもの学力、人間力が高まるんだという意識をもっと自覚して取り組めば必ずやこれらの施策がきちんと結果がついてくる、という具合に思っています。以上です。

高樋市長 ありがとうございます。今回の総合教育会議は小・中一貫教育と学力向上が議題で皆さんと意見交換させていただきましたが、大変有意義な意見交換ができたなと思います。学力は地道に取り組んでいかなければいけませんし、また、これで終わりということはない事業ですので、さらに教育委員会と市長部局とが連携を密にしながら取り組んでいきたい。後藤先生の故郷、伝統ですが、実際、黒石よされは小学校では運動会で利用していますが、中学校ではやっていない部分があるみたいで、この前、市制施行70周年記念式典では、それこそ黒石市民を主体にした、

こじんまりとした式典をやったんですが、参加した市民からは、いい式典だった、いい音楽祭だったと言っていたんですが市民の歌を初めて聞いたっていうんですよ。我々は市役所の中にいて、昼間当たり前に流れるので聞いているんですが、市民は聞いたことがないんですよ。よくケンミンショーで言えば、長野県かどこか県で必ず子どもたちが県民の歌を歌える県があるんですよ。それは何でかということ、学校でそういう指導しているんですよ。そういう伝統、故郷に愛着を持たせることでいけば、ぜひ黒石よされ、黒石市民の歌も教育委員会のほうでもひとつ、各学校で活用していただけるように考えていただければと思います。また、読み書きそろばんは、どういう時代になっても必要な部分だと思っています。これが全部ITに移行していても根本は変わってないでしょう。ですので、原点だけは切らさないように。そして、いろいろな人の意見も聞いていく。ただ、大きい組織でいろいろな意見を聞いていくというのはなかなか難しい部分もありますので受け入れてしまう。教育行政においては、学校運営協議会をしっかりとしたものを作り上げていただいて、そちらのほうでしっかりと多数の意見をお聞きした上で、ものを決めれるようにしていただきたいと思います。市政全般に関しては、いろいろな機会を見つけながら我々もそれに向かっていきたいと考えております。ヘルメットのルールの部分でも大変頑張っていただいて、教育長の方から非認知能力の話が出ましたが、今、世界では競争の原理が当たり前になってしまったところで、いろいろな弊害が出てきていて、これを回避するには非認知能力、人との交流がいかに大切になってくるか。これが逆に見直されるようになってきているので、黒石市が今まで先人の方々が積み上げてきたものをベースとしながら今取り組んでいることは、世界的にも評価していただけることにつながっているのではないかと考えておりますので、これからも黒石力をさらに高めて、黒石力というのは子どもたちから高齢者全ての市民が共有するものですので、この黒石力を充実させることが全ての問題の解決につながっていくと考えておりましたので、どうぞこれからも皆様方のいろいろな御意見をいただきながら目標に向かって進んでいけたらと思っていますので、御指導のほどよろしく願いいたします。その他何かございますか。よろしいですか。ないようでありますので、本日の議事は終了させていただきます。議事進行の御協力誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和6年度第1回黒石市総合教育会議を閉会いたします。
お疲れ様でした。

午後10時33分 閉会

◇署 名

黒石市総合教育会議運営要綱第7条第3項の規定により、ここに署名する。

令和7年2月19日

黒 石 市 長 (高 樋 憲) _____

黒石市教育委員会委員 (宇 野 元 雄) _____